

## 2018（平成30）年度決算について

学校法人 桃山学院  
理事長 出田 善蔵

2018(平成30)年度学校法人桃山学院の決算は、監査法人ならびに監事の監査を経たうえで、2019年5月21日(火)開催の理事会で承認されました。ここに決算概要の説明と決算諸表の公開を以下のとおり行ないます。

### [ 決 算 概 要 ]

#### (1) 資金収支計算書

資金収支計算書は、年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容を明らかにするとともに、支払資金の顛末も明らかにする書類です。ここでは、予算額との比較で説明します。

2018年度の決算は、収入の部合計で2億5,983万円増加の235億7,569万円となりました。これは主に、補助金収入(主に経常費補助金収入)、手数料収入(主に桃山学院大学入学検定料収入)、および雑収入(主に台風21号に伴う損害保険金収入)の増加によるものです。

一方、支出の部では教育研究経費支出、管理経費支出などが減少したことに加え、昭和町キャンパス新校舎建設に係る一部が次年度の費用計上に移行したことにより施設関係支出が減少しました。

このように収入増、支出減の結果、翌年度繰越支払資金は13億1,096万円増加の101億7,818万円となりました。

#### (2) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、年度の教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動に対応する事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、事業活動収支の均衡の状態(経営状態)をあらわす書類です。計算技術的には、企業会計の損益計算書とよく似ています。ここでは、予算額との比較で説明します。

まず事業活動収入では、資金収支同様、経常費等補助金に加え手数料や雑収入の増加により、事業活動収入計で2億6,101万円増加の110億9,943万円となりました。

次に事業活動支出では、教育研究経費および管理経費などの減少により、事業活動支出計で107億6,260万円となり、4億1,791万円減少しました。

この結果、基本金組入前当年度収支差額につきましては、6億7,892万円増加の3億3,683万円の収入超過となり、事業活動収支差額比率は3.03%となりました。

また、基本金組入額につきましては、1億7,668万円減少の18億6,816万円となりました。その主な内容は図書や備品関係などの恒常的な取得資産の他に、昭和町キャンパス新校舎建設工事費用10億円(建設仮勘定支出)を第1号基本金に組入したことがあげられます。その他、新校舎建設工事に伴う昭和町キャンパスのカンタベリー館食堂改修工事、教育大学における受変電設備更新工事やトイレ改修工事などに関するものを第1号基本金に組み入れ

したほか、第4号基本金に1億4,605万円を組み入れしました。

18億6,816万円の基本金組入れにより、当年度収支差額は15億3,133万円の支出超過となり、翌年度繰越収支差額は4億5,405万円の支出超過となりました。

### (3) 貸借対照表

貸借対照表は期末における学院の財政状態を示します。ここでは、前年度決算額との比較で説明します。

まず資産の部ですが、有形固定資産では、新校舎建設工事に伴う建設仮勘定10億円の計上があり、減価償却等を踏まえた資産の増加は15億9,629万円となりました。特定資産では、新校舎建設工事に伴う将来構想資金引当特定資産の取り崩しなどにより、39億5,000万円の減少となりました。その他の固定資産では、長期貸付金の減少などにより、751万円減少し、固定資産全体としては23億6,122万円の減少となりました。

また流動資産では、現金預金の増などにより、合計で23億1,095万円の増加となりました。その結果、資産の部合計は、5,027万円減少の869億3,828万円となりました。

次に負債の部では、固定負債における長期未払金の増加があったものの、流動負債における未払金の減少などにより、負債合計で3億8,710万円の減少となりました。

結果、純資産額は2017年度末に比して、3億3,683万円増加の813億3,474万円となり、総資産額に占める割合は93.6%となりました。

なお、各々の科目の数値等につきましては別掲「各種計算書類」を、上記財務3表における実績ベースでの経年の概況・比較につきましては決算経年推移資料をご覧ください。

以 上